

## 令和3年度 通信単位制高等学校「第一学院高等学校高萩校」学校評価報告書

### 1 学校の特徴

第一学院高等学校高萩校は、その教育目標に「社会で活躍できる人づくり」を目指し、一人ひとりの生徒と向き合い、一人ひとりの幸福を願い、一人ひとりを育むという「1/1（いちぶんのいち）の教育」を教育理念に掲げている。

生徒をプラス思考に変える独自の意欲喚起教育「プラスサイクル指導」を指導の基軸とし、生徒個々の自他肯定感を高め、生徒一人ひとりの『もっともっと自分を好きになる』自分づくりをサポートしている。そのため、今後の社会の変化を見据えた教育の改革に向けて、生徒の成長度の可視化を目的とした「デジタル自分未来史ファイル（成長の軌跡を残すeポートフォリオと成長の実感を表す独自の「成長度マップ」）」に取り組んでいる。

また、独自のキャリア教育である「地域全体を“学校”と捉えた教育『コミュニティ共育』」の推進により、地域と連携して、社会の仕組みや働くことの意味を知り、自身の将来を考える手がかりとなることを意図して、職業・職場観察や仕事にかかわる講話、ボランティア活動等の機会を提供している。

教科学習においては、「生徒の学習意欲の向上」と「基礎学力の定着」を目的に全生徒にタブレット端末を配付し、第一学院独自の個別最適化・自立型学習法（通称：マイプラ）を展開し、通信制と親和性の高いICT教育を推進・充実することで、より多くの学びの利便性と創造性を高めようと努めている。

通信制課程の本校には、スポーツや芸能活動などの夢の実現と学業との両立を目指す生徒のほかにも、不登校や高校中退等を経験した生徒が多数在籍・卒業している。そのような多様な生徒たちが、それぞれの希望する進路を実現できるよう生徒一人ひとりの「チャレンジ・再チャレンジ」を支援している。

その教育活動の一環として行われている高萩校スクーリングに関しては、令和3年度は約6,000名の生徒たちが受講した。新型コロナウイルスの感染拡大により、各都道府県から高萩校に集い実施する集中スクーリングが困難なため、文部科学省・内閣府の指針に則り、各都道府県にある学習センターでのオンライン学習で代替したため、高萩の地を訪れたのは約610名にとどまった。オンラインでの学習は、高萩市民講師による体験学習においても実施され、小さな成功経験を通じ、「達成する喜び(達成感)」や「他者へ貢献する喜び(貢献実感)」を体感させている。この学習での気づきや学びにより、将来の夢や目標を意識させ主体的な学びが育つよう意図している。生徒たちにとっては、第一学院高等学校高萩校が「母校」、高萩市は「第二のふるさと」であり、一生涯の高校生活の思い出として心に強く残るにちがいない。

第一学院高等学校高萩校は、『建学の想い』である「常に素直な心」「夢を意識し、夢を持つ」「達成実感・貢献実感」を深化させ、生徒一人ひとりに応じた自他肯定感を育む教育を推進している。

また、生徒の現在と向き合い、「将来の人生を左右する重責を担う」という使命を果たすべく、教職員・事務職員スタッフ全員で“社会で活躍できる人づくり”に取り組んでいる。



り、不断の経営努力なくして業績確保は難しい。

今後も教育理念「1／1（いちぶんのいち）の教育」のもと、全国の学習センターとの連携強化を図り、通信制高等学校としての高萩校の指導と付加価値を与える学習センターの指導を、それぞれを指導する教職員・カリキュラム等に明確に位置づけ、当校への理解、安心感、信頼感等を高めていくことが求められる。

また、学習センターの見直し、充実は今後も大きな課題である。「学び直しができる」「多様なメディア学習がわかりやすい」「専門的な学習コースも用意されている」「進学指導が充実している」「進学や就職情報が充実している」等、地域や保護者・生徒のニーズに応じたセンター機能の発揮が求められる。

さらに、顧客（生徒、保護者）の信頼を得る、より安定した経営のため教員の採用・養成・研修の充実・改善に努めていくことが重要である。

#### 4 学習指導について

教科学習においては、「学習意欲の向上」「基礎学力の定着」はもちろん、情報活用能力の育成を目的に全生徒にタブレット端末を配付し、映像・音声による授業配信とともにタブレット上でのレポート作成・提出を行っている。

通信制高等学校では、学習は自学自習を基本として、決められた回数のレポート提出と合格が単位認定の条件の一つである。しかし、なかには途中で提出が滞る生徒もいる。レポートは全日制の授業に相当するものであり、生徒の学習状況を把握し、思考の方向とつまづきを的確にとらえ指導することが必要である。

各学習センターに所属する生徒にとっては、センターでのレポート作成支援が重要になってくる。生徒一人ひとりの学力、生活の実態を的確にとらえ温かみのあるきめ細かな支援、指導が求められる。レポートは生徒一人ひとりに採点、講評、学習上の注意点等を記入して返却されるが、生徒のその後の自宅学習に示唆を与える添削コメント及び後指導の充実を期待したい。

通学生は、茨城県北地区、特に高萩、日立、北茨城在住の生徒が半数以上を占め、福島県いわき市等の県外からも通学している。通学生は、月2回（金曜日）の登校日にきめ細かな指導を受けている。当校には、多様な生徒が在籍し、学力の差が大きいという実態がある。そのため、教職員には基礎・基本を押さえ、生徒一人ひとりの課題を共有し、個を生かす教育の工夫と丁寧な指導が求められる。

#### 5 体験学習等について

高萩校スクーリングにおいては、高萩市民参画による体験学習をキャリア教育の一環として重視している。本年度の体験学習は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くの生徒がオンラインでの学習にならざるを得なかった。「異年齢の地域市民」から生徒が指導を受けることによって、さまざまな「気づき」・「実感」が生まれ、将来を前向きに描き、現在の課題に対し意欲的に取り組む態度につなげてほしい。

体験学習で連携するNPO法人「里山文化ネットワーク」においても、様々な工夫がなされ生徒の意欲付けに努力されている。職業として長年従事してきた、特に農林業等の分野で豊富な経験を持つ高齢者やボランティアが中心となり指導にあたっている。

今後も継続的・安定的に活動できるようNPO法人「里山文化ネットワーク」と連携を図り、科目の充実、講師の確保・養成に努めていくことが求められる。

11月には、コロナ禍のもと、通学生等が中心となって自ら企画した新しい形のオンライン参加型の第14回文化祭「橙萩祭（とうしゅうさい）」を開催した。

高萩校に訪れた方に体験学習で学んだ手芸や木工の制作支援、模擬店での接客・販売体験（大根売上156本・7,800円）、プレイルームでのアテンド等、積極的に活動する生徒の様子が見られた。地域からの参加者も年々増加し盛況を呈している。（第14回橙萩祭オンライン参加者を含め来場者95名）生徒も準備から当日まで、懸命に取り組んだことによって生まれた自信と達成感は貴重なものになるだろう。

## 6 保護者との連携

保護者に対して、「里山通信（家庭通信/学年通信）」を毎月発行し、学校の目標や方針、教育相談案内等を知らせることにより、理解・協力が得られるよう努めている。

今後も通信の継続と紙面の充実を期待したい。

## 7 スポーツコース(サッカー部)について

平成19年4月にスポーツコース(サッカー部)を創設しているが、創設の目的として、一つには、本校には不登校や引きこもり、高校中退等の挫折を経験した生徒が多い中で、サッカー部の仲間が活躍することにより全国の在校生や卒業生に元気と勇気を与え、母校に誇りを持ってもらいたいということあげている。また、時間的制約の少ない通信制課程である点を有効に活用し、サッカーを通じて夢にチャレンジしたい若者にその場を提供するためとしている。その趣旨で株式会社立高校として初めて高体連に加盟を認められ、全日制高校生と同じ大会に参加している。

創部以来の歴史において、特筆すべきは、平成26年第93回全国高校サッカー選手権茨城県大会では初の優勝と全国大会出場を果たし、翌平成27年度第94回全国サッカー選手権茨城県大会では2年連続の全国大会まであと一步の準優勝を果たしたことである。

サッカー部では、年間を通じて、試合期・トレーニング期など、サッカーのスケジュールに合わせた生活を送っている。日中にトレーニングをし、通信制の特色を活かしたフレキシブルな日課で学習時間の確保を行っている。また、地域でのボランティア活動を通じた人格形成を行うとともに、アスリートとして必要な専門的なスキル・知識も学んでいる。

令和3年度は、部員数62名（3年次17名、2年次15名、1年次30名）となり、近年の課題であった部員数確保にも前進が見られ、活気ある活動が実践できている。また、コーチングスタッフもJリーグトップGKコーチそして、大学日本代表スタッフの2名のコーチに加え、下宿生の生活面をサポートする2名の寮監、けがを防ぎ身体のパフォーマンスを最大限に引き出す臨時フィジカルトレーナー1名が加わり、IFAリーグ2部で着実に力を取り戻し令和4年度の1部昇格を決めた。一層の強化並びに強豪復活が期待される。

また、Jリーグの川崎フロンターレに所属する卒業生が、令和3年にサッカー日本代表に選出された。他にもゴルフやスノーボード等の分野で活躍する卒業生もいる。

サッカー部はもちろん、上述の選手らの活躍が、高萩市民はもとより、全国で学ぶ本校生徒やすべての通信制高校生に大いなる元気と勇気を与えてくれることを期待している。

令和3年度における戦績は下記のとおりである。

令和 3年度	I F A U-18茨城県リーグ（2部） 1部昇格決定	第2位
	第100回全国高校サッカー選手権決勝トーナメント	5回戦敗退（ベスト16）

## 8 「高萩市教育特区」における経済効果等について

「高萩市教育特区」による経済効果を考えた時、スクーリングは主要な柱である。

そのため、今年度は検温・マスク着用・フェイスシールド着用・アルコール手指消毒・飛沫感染防止のためのアクリルパーテーション設置に加え、校舎玄関へのアラーム付体表温感知サーモグラフィを設置した。さらに生徒登校前日に校舎内の次亜塩素酸ナトリウム希釈水による洗浄等、新型コロナウイルス感染防止対策を行った上で、一部だが本校スクーリングを実施した。しかし、コロナ禍以前の状態が、経済効果の点からもできるだけ早期に戻ってくることを期待している。

経済効果全体については、市の税込、施設等の賃借料及び使用料、講師料、学校施設維持管理経費、教職員の日常生活費などで、約1億8,900万円となっている。

また、体験学習の講師を依頼しているNPO法人「里山文化ネットワーク」との連携や、感染防止に留意しながら縮小して本校独自に実施した「高萩駅前ロータリー清掃」「国道6号・国道461号・県道10号側道清掃」でのボランティア活動等は、地域活性化及び地域振興に繋がっている。

(参考)

卒業生進路状況(令和4年5月1日 学校基本調査より)

卒業生 2,052名

進学	・大学	501名
	・短大	40名
	・通信制大学	184名
	・専門学校	562名
	・専修・各種学校	1名
	・高等学校専攻科	1名
	・特別支援高等部	0名
	・公共職業能力開発施設等	11名
就職		356名
その他		396名（受験浪人生や在家庭者）